ACTIVITY REPORT
経営協の活動紹介

経営者層および現場向けに、ふくしDX推進の意義やポイントを解説

ふくしDX推進特別委員会「国際福祉機器展（H.C.R.）」セミナー登壇

ふくしDX推進特別委員会セミナー
「DX推進が拓く福祉の未来」

【登壇】
「社会福祉法人経営の未来ーICT導入が切り拓く福祉の新時代」
全国社会福祉法人経営者協議会
ふくしDX推進特別委員会 委員長
社会福祉法人あさがお福祉会 CEO兼統括施設長　保岡 伸聡

「福祉サービスにおける生産性向上
～生産性検討委員会を中心とした取組について～」
全国社会福祉法人経営者協議会
ふくしDX推進特別委員会 副委員長
社会福祉法人豊心会 理事長　武部 幸一郎

【コメント】　ふくしDX推進特別委員会 専門委員
株式会社ヤマグチ 代表取締役　山口 純 氏

保岡 伸聡委員長

武部 幸一郎副委員長

国際福祉機器展にて、施設のICT導入講座に登壇

「国際福祉機器展（H.C.R.）2025」（主催：全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会）が10月8～10日に東京ビッグサイトで開催された。

ふくしDX推進特別委員会が、セミナーを企画・運営し、保岡委員長と武部副委員長が講義を行った。

社会福祉法人経営の未来 ーICT導入が切り拓く福祉の新時代

保岡委員長は、少子高齢・人口減少社会における福祉業界を取り巻く現状について言及したうえで、事業種別や法人の規模にかかわらず取り組めるDXの実践として、アナログ業務の効率化とバックオフィス業務のデジタル化を提案した。

勤怠管理や会議録の作成等、アプリや生成AIの活用について、自法人の取組を紹介したうえで、業務効率化することは、利用者と向き合う時間を増やすことにつながると解説し、自法人で協力を得ているSEの近久氏を紹介し、外部専門家（社外SE）のメリット等についても解説した。

さらに「ふくしDX」とは、業務効率化や人材不足解消にとどまらず、地域の困っている人が相談しやすくする環境づくりや、見えない社会課題の解決につなげていくことが目的であることも述べた。

福祉サービスにおける生産性向上～生産性検討委員会を中心とした取組について～

武部副委員長は、業務効率化はあくまで手段であり、結果として生産性が向上するという考えのもと、自法人で実践している委員会の立ち上げなどの取組の効果について解説した。

「なぜ生産性向上やICT化が必要なのか」の共通理解をもって体制づくりをすること、また、テクノロジーの導入時には、小さくテストをして経験値を積みながら全体に広げることの重要性が示された。

また、地域連携の強化として、介護者向けのAIチャットサービスや居住支援等の実践も紹介した。

まとめとして、㈱ヤマグチの山口氏は、福祉業界における生産性向上とは、間接業務を減らし、利用者が喜ぶことや社会のためになることを増やすことであるとしたうえで、委員会等の体制をつくり、継続的に改善を検討することがDX化がうまくいくポイントであると解説して締めくくった。